

いのちを食べて生きている私たち。私たちの生活を支えている農のこと、そして自給自足の暮らしについて、もっと身近に感じてもらおうと連載を始めました。



五風十雨農場 向山邦史さん

農場に付けた、「五風十雨」は、五日に一度風が吹き、十日に一度雨が降る…。気候が自然の運行に沿って順調に巡り五穀豊穰を表し、転じて、心配のない何もかも満ち足りた安穩理想的な太平な世のことを意味する名前だと思っています。

『緑と水と光あふれる谷』こんな言葉がびったりの素晴らしい所が山梨県北杜市白州町の本村耕地です。農場は衣食住、エネルギー、教育、福祉などいわば生活の総てを自前でやっていこうと、いろいろなことからの自立、自給自足を目指しています。

地球とのお付き合い

93年、社長業をしている時に『地球村』の高木さんとの出会いがあり、10回連続して講演を主催しました。それ以来、地球とのお付き合いをどうするかが、いつも心の大きな部分を占めるようになっていきました。私たちは幸せを求めているのに、その一番原点にある地球環境の安定には余り意識していないように感じていました。幸せであるためには、毎日食べられることが大切なのに、地球温暖化 気候の不安定 農業の衰退

食糧危機などの連想が浮かびます。自給率の低い状態は自殺行為にも見えて、そうだ幸せの実現のために農業をしようと決めました。それまで休日は、ゴルフ、ヨット、飛行機の操縦などばかりしていましたが、それが

らは畑のほうに行くようになりました。

農業の真似事を始めると、種を蒔けば芽が出、成長しやがては実を付けて私の口を喜ばせてくれます。手を抜けば抜いたなり、手を掛ければ掛けたなりに応えてくれる。とても面白いことだとドンドンハマってゆくばかりでした。もともと化学肥料も、化学農薬も使わないでやろうと決めていましたが、自然農の川口由一さんとの1997年の出会いから、草や虫を敵としない命に溢れる田んぼ、畑を目指すことになりました。

今ではトンボだけでも17種類、植物は100種以上数えられる田んぼになっています。生物が多様性に富んでいる農場から安心、安全の食糧がつけられてゆくものだと感じています。

農場の開墾

農場は、甲斐駒ヶ岳のふもとの素晴らしいロケーションのところにあります。でも、どこの里山の風景とも同じように、田んぼのすぐ隣には30年以上も耕作放棄された、棚田や畑が広がっていて、先人が汗を流して折角開いた土地が泣いています。笹藪になっていたり、大きな木が生えてしまっていた荒地に、牛や山羊、羊などを入れて開墾もしています。牛は500キロもある巨体ですから、仕事も速くブルドーザーのような仕事振りで。山羊たちは牛の入った後からもっと丁寧に草を食べてくれて仕上げをしてくれます。彼らの仕事後は牧草地として活用し、最後は畑として使っていきます。



稲作の大失敗

昨年も約5反歩の棚田を自然農で稲作をしました。スタッフの怪我もあり人手が少ないので田植えに手間取り、除草のタイミングが大幅に遅れてしまい、コナギがびっちり生えてしまいました。稲の成長が進まなくなったように感じたため、小糠を反当り150キロくらい撒きました。しかし、稲の成長は進まずに、コナギはますます元気にはびこりました。その状態はいつまでも変わらず、結局稲はほとんど分けつせず、見るも無残なことになり約3俵の収穫しか出来ませんでした。5反歩に費やす労力は結構大変ですからとてもガッカリしました。草が生えてしまった後の追肥は草を成長させるばかりで、稲の役には立たないという教訓を頂きました。来年からはこんな失敗はぜったいしないぞ、と皆で笑いあいました。



農場にはパートを含め大体常時3人が関わっていますが、冬場の仕事も確保したいと植えている5反歩のサツマイモ畑からは今年も約6トンが収穫できました。冬場は閑になる農場の仕事を分散するために、干し芋(山梨ではキッポシと呼びます)を1月初旬からつくり始めます。農業は現金になる部分が少なく、運営には苦勞することが多いのですが、お陰さまでうちのキッポシは甘く、やわらかく、歯ごたえも適当に良く大変評判も良いので、作っただけ地元の道の駅などで売られています。3月末の踏み込み温床に芋を伏せて苗を取る作業から考えると一年がかりになります。農業は自然に関わる何より楽しい仕事です。でも難題はお金に換算すると生産性が低いために、人件費をあまり掛けられないことです。昨年から大きな問題になっている大量の失業者とともに農業をしたいと考えていても、吸収余力には限界があります。永続循環でき

る里づくりのためにはお金の循環も大切なことですが、この点については解決が難しいといつも感じています。

地球村をつくる

農場では、地産地消の地元産でウッドマイレージゼロのログハウスを建築中です。ここは、自分たちが栽培した穀物や野菜、野草などを食材としたフードマイレージゼロのコミュニティーのセンターキッチン、マクロビオテックのレストランになります。農場の最終目標は衣食住、エネルギーの自給自足、「花が咲き、いのちがうたう瑞穂の里づくり」で、30人くらいの人に関わるコミュニティーをつくりたいと思っています。言ってみれば小さな地球村をつくって全国の同じ思いの人たちと繋がって、新しい社会作りのお役に立てたら嬉しいなあと思っています。

みなさんお待ちしております

南アルプスを望む素晴らしいロケーション、山羊や羊、生命力に溢れた「緑と水と光あふれる谷」でリフレッシュしませんか。4月中旬には自分たちの手で栽培したお米や野菜などをつかった、マクロビオテックレストランもオープンします。東京などの都会からも比較的近いですから、日帰りでもどうぞ農村体験にお出かけください。ぜひ、自分の食べるものに関心を持っていただくと共にプランターでもいいので自ら土に親しみ、作物を育てる体験をしてみてください。



五風十雨農場

<http://www.eco-phoenix.com/Gofuujyuuu/>
〒408-0313 山梨県北杜市白州町横手 1118
Tel/fax: 0551 - 35 - 2747
農場長 藤巻 090 - 9013 - 9353
mail: kunihito@1611mp.jp

このコーナー - に登場していただける方を募集します。自薦他薦問いません。事務局までメールでご連絡ください。
mail: tusin@chikyumura.org